

平成 29 年度  
舞鶴市総合計画策定市民ワークショップ  
活力あるまちづくりグループ

報 告 書

平成 30 年 3 月

## 《活力あるまちづくり》 市民の提案・意見のまとめ

11月28日から計5回にわたって開催された「舞鶴市総合計画策定市民ワークショップ」では、市民の皆さんからたくさんの意見・提案、感想などが出されました。私たちが日頃感じている素朴な思いや、もっと暮らしやすいまちにしたいとの思いが詰まっています。これらの意見が総合計画に反映され、私たちのまちがさらに活力あるまちになることを祈念して、意見を提出いたします。

「舞鶴市総合計画策定市民ワークショップ」『活力あるまちづくり』グループ

### 【参加メンバー】

氏名	所属団体等
岸田 広樹	京都府漁業協同組合
白田 誠	舞鶴市森林組合
福長 尚斉	舞鶴観光協会
川上 英明	舞鶴商工会議所
奥野 和美	日本板硝子(株)舞鶴事業所
荻野 直人	ジャパン マリンユナイテッド(株)舞鶴事業所
千田 貴司	京都職業能力開発短期大学校
丸山 栄利	京都銀行
土下 喜正	市民公募
亀井 良太	舞鶴市総務部債権管理課
今井 竜夫	市民文化環境部環境対策室清掃事務所
渋沢 元気	産業振興部観光まちづくり室観光商業課
久保 将太	産業振興部産業創造室みなと振興・国際交流課
川手 真奈美	建設部土木課

### 【検討テーマ】

産業振興（商工業、農林水産、雇用、京都舞鶴港、エネルギー）、観光、スポーツ振興・交流、地域連携（北部連携・旧軍4市等）歴史文化を活かしたまちづくり

## 【提案・アイデア】

1. 市民が住み続けたいと思うまちには賑わいが必要である。クルーズ船の入港やイベントの開催など人の滞留を生む機会を最大限に活用し、市外資本の展開を視野に入れつつ、質の高いサービスを提供するべく常に前向きな努力を続けることが必要である。
2. 観光入込客数、観光消費額、宿泊客数の増加のためには誘客だけでなく、お金を使っていたかく仕組みや受け皿を用意することが必要である。そのためには、官民を問わずそれぞれの立場に応じた努力が必要である。
3. 農林水産業の振興にあたっては、製品の販売促進に加え、担い手不足の解消の面からも、ブランド化やPRに努めて「稼げる一次産業」のビジネスモデル及びイメージ形成が必要である。
4. できるだけ長く続けることが出来る仕事と求職者のマッチングを目指し、職種を増やすことや、ニーズ把握が必要である。
5. 京都舞鶴港は人流・物流の両面で大きな可能性を持つことから、国際社会の潮流を踏まえつつ、経済交流の促進やリダンダンシー機能の強化を図るとともに、国内・国外を問わず船社への誘致活動を継続し、より使ってもらいやすい港を目指した特徴のある港湾振興が必要である。
6. 環境問題に向き合い、未来の生活環境を守る取り組みが必要である。再生可能エネルギーの積極使用やCO2削減の取り組みは、市内企業を守ることに繋がり、如いては国・市の国際競争力を保つことに繋がる。
7. スポーツの楽しさが広く市民に伝えられる場所や機会を持つことで競技人口を増やし、その中でさらに競技力を高めたい選手に対しては十分な指導が行える環境を整えるべきである。スポーツ選手の育成は農業と同じであり、強い選手を作るにはそれにふさわしい土壌作りが必要である。
8. 単独の市がフルセットの行政機能を維持し続けることは困難な時代であり、北部7市町をはじめとし、他市町村との連携の可能性を常に模索し続けることが必要である。
9. 保存されている歴史・文化を、観光資源として活用し、ライトアップすることで新たな価値の発見に繋がることもある。また、未来への遺産であることを子どもたちにしっかりと伝え、引き継ぐことが必要である。
10. 多文化共生を推し進め、日本人、外国人を問わず受け入れられる態勢を整えるべく、引き続き意識改革が必要である。

## 【各テーマにおける主な意見・感想】

### 《商工業・エネルギー》

- 専門的な知識を持つアドバイザーから支援いただく取組（現行制度あり。商工会議所と連携し、11社に専門家からアドバイス）は、継続すべき。
- クルーズ船については、2016年は22,200名が来港され、1億6400万円の直接効果と、2億6600万円の波及効果があったと聞いたが、実感に乏しい。波及効果を生むツアーなどを、もっと積極化するべき。
- 商工業で色々と支援されているが、空き店舗が多い。私自身、最近、商店街へ行っていない。シャッターが閉まっていると町の印象が暗くなる。シャッターをきれいに彩るなど工夫が必要。
- 夜の市に出向く人は多い。うまく活用して、クルーズ船の客を歓迎したり、街中散策に誘導するとよい。
- 新規出店は飲食関係が多く、小売り等は少ない。
- 昔ながらの商店街の姿、賑わいを取り戻すのは難しい。例えば、商店街全体をひとつのホテル、各店舗を客室等とみなして、フロントは八百屋、レストランは酒屋、客室は本屋と、店舗を移動するなど、おもしろいアイデアを考えたい。
- 商店街であっても、商店街ではない方法（売り出し方）も考えないといけない。人が行かない場所や店を維持し続けるのは難しい。
- 新規出店希望者から相談があるが、アーケードの負担金が重い。駐車場がない店舗には入居されない。結局、駐車場が必要ないアルコールを取り扱う飲食店ばかり出店される。
- 市でも、事業者に新しい商品の開発の話をするところがあるが、ブームで終わる可能性もあり、新たな投資に対して尻込みされることもある。新たなチャレンジに取り組みやすい仕組みや機運を盛り上げていくことも必要では。
- 商業について、市外に資本を持つ店舗の展開は地域の衰退に繋がるとする考えと、ブラッシュアップに繋がるとする考えがある。
- 誰のための政策か。一消費者としては市外資本の展開は嬉しい。でも、大きな店舗（ショッピングモール）が来れば地元店舗はおそらくやっけない。
- 一部の店舗を守るために市外資本を入れないのならもったいないと思う。
- 商店街への出店に係る補助金は、出店者がこれに頼ってしまうことがある。こうなると、出店を促している反面甘やかされた出店者は店を続けられなくなったり、結果として市の発展の妨げになってはいないか。
- 貸し店舗も、補助金があることを見込んだ家賃設定となり、高止まりしているかもしれない。
- 商売しておられる方で、後継ぎがない理由で廃業されるかたもあるのか。  
⇒そういった方もある。設備投資が必要になり、そこまでせずに廃業する方など。
- 市外資本の展開を排除してしまっけない。地元店舗も頑張らないといけない。具体的には、必要とされているものをもっと知ろうとするべき。ショッピングモールにないものでもいいものはたくさんある。満足を売っている。努力している人もいる。

- 人は質の高いサービスを求めている。市外資本であっても、そのサービスが提供されることで、人が集まり、周辺にも消費行動が広がる。また、質の高いサービスが提供される町に人は住みたいと思うので、サービスの内容を競い合うべきである。
- 工業について、環境問題を念頭におくべき。再生可能エネルギーの積極使用、CO2 の削減を真剣に進めないと国際競争力はなくなる。国も環境基本計画改定の間取りまとめの中で「SDG s の考え方を活用」することをうたっている。日本はすでに環境問題後進国。アップル社も日本にも環境先進国になってほしいと示唆している。もはや大企業だけの話ではなく、下請け、孫受けの中小企業も取り組んでいかなければいけない課題。本市所在の企業もしかり。
- 環境先進国としてヨーロッパは進んでいる。国際社会は化石燃料から再生可能エネルギーへと切り替わってきているので、これに係る助成等があるとよい。
- LNG 拠点基地、ガスパイプラインはぜひすすめてほしい。  
⇒個別具体的にすすんでいるわけではなく、計画中という状況。エネルギー供給拠点にしたいという目標を掲げている状況。
- 森林組合としては、木質バイオマス発電所はありがたい。国では、住民税に一人 1,000 円の森林環境税を上乗せする方針。そういった税からも、今後もこのような再生可能エネルギー施設が増えるようすすめてほしい。

## 《農林水産》

- 専業農家へ支援はあるが、兼業農家への支援についても、機械購入等とても大変でリターンが無いなか、支援をするべきだと思う。  
⇒年間就労日数や出荷量等の条件によって支援あり。
- 林業では竹を利用する事業をしている。林ベニヤのバイオマス発電では材料不足分は府内の木材を利用することになっている。山を治めるという視点からもぜひ、成功させてほしい。
- 農漁村について、空き家バンク制度がある中、古民家の改修補助制度は大切な施策だと思う。過疎化が進み、担い手が不足するなか、今後も積極的に取り組むべき分野だと思う。
- 農業のブランド力向上、PR をもっと積極化する必要がある。商工・農林・水産の 3 課連携で PR していると聞いた。海のイメージをもっと売り出して欲しい。
- 農業所得 400 万円以上得るためには販売金額 1,000 万円とのことだが、水産でも、最初はサラリーマン漁業者でも良いので、独り立ちのための支援を積極化させて、舞鶴の売りの一つである水産物の担い手を育ててほしい。
- 水産のブランド化、PR 後の反応が気になる。首都圏のホテルで 2 週間の舞鶴フェアを継続していただいていると聞くが、今後も積極的な取組が必要。
- 政策や補助金がうまく働き、今は農家戸数が安定している。
- 災害時の支援をしっかりと行うことが重要。

- 鳥獣害の補助金はしっかり出ていると思う、今後も継続するべき。
- 農漁村の空き家バンクの運用や PR も重要だが、同様に就労者のケアも重要。漁協にも漁業就労希望者からの移住の問い合わせが意外に多いが、実際その地で住むとなると、自治会との接点も難しい。マッチングを市の担当者が主体的に取り組んで欲しい。
- 漁業年配者の中には、パソコンが使えないため PR に苦慮している方がいると聞く。観光 PR においては、農林水産物の良いものを知ってもらい、そして来て食べていただくことが重要と考える。そのため、サポート体制を構築できないかと考える。
- 旅行に行っても、その町ならではのものが重要。売り先を分かりやすくホームページ等で案内できないか。
- 空き家バンクの強化。農漁村のバンクとまちなかのバンクはターゲットとなる層が違うと思う。分けて運営してはどうか。
- 漁業者は減る一方に思える。漁業権のハードルが高いのでは。早めに手を打ったほうがよい。  
⇒漁業者（さらには人口）が減ると漁業権はとりやすくなるだろう。
- 昔はブリなど魚価が高い魚が取れたが、最近ではさわらなど魚価が安くなってきている。以前と同じ収入を維持しようとするれば、漁業者が減るか、ブランド力の強化に努めるべきである。

## 《雇用》

- Iターン、Uターンの数は。  
⇒就職フェア参加者のうち10～20%が就職している。
- 今は、働く場はあるが働く人がいない。働く場はあるが働きたいと思える職種がない。
- 在職者の方でハローワークを利用される方が増加している。つまり舞鶴市の特徴として、「もっと良いところで働きたい」という人が多い。会社をよく知ってもらい、しっかりしたマッチングが必要なかもしれない。
- 今、介護の人材が不足しており、市内で学び市内で働くためにも YMCA にもっと学生が集まって欲しい。何か支援はしているのか。  
⇒卒業後に市内で就職すれば返済が免除される奨学金制度がある。ポリテクカレッジにも「たから者奨学金制度」があるほか、舞鶴高専にも低所得者向けの奨学金制度がある。共済病院でも看護学生が免許を取った後3年間働けば奨学金の返済が免除となる。
- 人手の足りない介護分野などでは、外国人労働者の力を借りることも有効だが、都道府県の認可が難しいところもある。
- 外国人労働者を受け入れる仕組みがあるのかも知れないが、分かりにくい。舞鶴では都会の企業が受け入れて舞鶴へ連れてくることが多い。寮がある企業もあるが、住むところが課題となっている。
- 外国人労働者について、考えていくべき時期。最近では、日本からシンガポールへ仕事に行く人がいる。一昔以前のように待っていても来てもらえなくなるかも。要は、その国

でチャンスが持てるかどうか。

- 障がい者雇用について、送迎が必要になったり、職場の改修が必要になったりと、費用がかかりがち。
- 障がい者の社会進出を阻害すると、行政等が生活面を含めて保護する必要があるが、それが障がい者にとって幸せとはいえないと思う。
- 民間にとって障がい者を雇用することで負担に感じるどころ（トイレや電源の位置、動線の確保など）があれば、行政が一定のフォローをしてでも、活躍してもらうことが、社会全体でのコストの低減に繋がるし、障がい者にとっても社会進出による生きがいに繋がるのではないか。

## 《京都舞鶴港》

- コンテナ取扱量は、増加傾向とはいえまだまだ少ない。太平洋側と比べてというだけでなく、日本海側の他港と比べてもまだまだ少ない。舞鶴市の周辺市町の企業でも阪神港を使う。コスト、便数、輸送日数、輸送量等を考え、阪神港に流れる。機能強化し、便数が増えればコストも下がり、使いやすい港になる。
- 貨物の中身は鉄鋼、パルプ、古紙、日用雑貨等。
- コスト、便数、輸送日数、輸送量のどれが重要か。  
⇒荷主はそれら全てを考慮して選ぶのでバランスが大事。
- クルーズ船誘致は続けるべき。発着型は通過型より乗下船前後の観光消費額が大きく、発着クルーズの定着化を目指すべき。国内客向け・海外客向けに問わず、船社への誘致活動を継続して行っていくべき。
- 舞鶴の知名度はまだ低く、近畿圏や中京圏を中心に、舞鶴のアクセス手段や周辺観光地のPRを今後も継続して行う必要があるのではないか。
- 物流・人流の面において、舞鶴の強みを活かし他港との差別化を図り、特徴のある港湾振興を図るべき。ひとつは、東北アジア（ロシア・中国東北部・韓国）との経済交流を促進してはと思う。東北アジアとの素早い輸送を実現するため、日韓露国際フェリーの直行航路化を今後も推進したり、ロシアや中国東北部地域との貨物を創出するため、企業のマッチングの機会を増やしたり、極東ロシアと欧州ロシア地域間の素早い輸送ができるシベリア・ランド・ブリッジ（SLB）輸送の活用を促進したりすることは舞鶴港にとって有益だと思う。特に、最近、日ロ間の経済交流は国レベルで推進しており、非常にチャンスだと感じている。もうひとつは、阪神港などのリダンダンシー機能としての港として存在感を高めていけないかと思う。東日本大震災以降、災害時対応の取り組みが注目されており、舞鶴の果たせる役割は大きいと思う。そのためには、ふ頭の強化だけでなく梱包業者や輸送業者、倉庫業者など民間ベースでの港湾関連機能を充実させていく必要があると思う。
- 間接的ではあるが、港湾機能など基盤整備は、企業誘致にも効果的だと思う。

## 《観光》

- 観光入込客数と観光消費額の根拠は何か。舞鶴を訪れた人からは、とれとれセンターで買い物をした、かまぼこを買ったという話をよく聞く。消費額はもっと多いと感じる。  
⇒統計は全国の統一した基準で主要な施設を定めて定点で集計している。入込客数が基準以下の施設や単発のイベント等は対象とならない。クルーズ船の乗客の消費も、観光施設でならカウントされるが市内の一般の店での消費はカウントされない。実数と異なる所はあるが、トレンドはとらえている。
- 観光客から、買い物をしたいのに買える店が分からないという意見があるのも事実。
- 観光消費額を上げるには市民にも努力がいる。そのことが伝わるとよいと感じている。
- 海の幸などのグルメはたくさんあるが、スイーツの店が少ないと感じる。スイーツは女性や子供にも人気で消費額UPにもつながる。
- 博多の通りもんや東京ばな奈といった「舞鶴に来たらこれ」という毎回でも買って帰りたいような土産の開発が必要。舞鶴茶を使ったパウンドケーキはおいしかった。  
⇒民間で舞鶴茶を使って商品を作ろうと思っても、安定して調達することが難しい。
- 舞鶴海自カレーのスタンプラリーでは、カレースプーンや箸置きと交換できたり、抽選で海上自衛隊基地の見学ツアー等も実施されている。プレミアム感（ここでしか味わえない）が高く、海上自衛隊の見学などはもっとPRしていくべき。
- 観光消費額UPのために宿泊客を増やしていくと言っても、旅館は減り、ビジネスホテルが多く、観光で来た家族が宿泊できるような施設が少ないと感じるが、何か策はあるのか。  
⇒今ある宿泊施設の稼働率を上げていくことや、施設に来てもらいやすいような環境を整えていくことが重要。固定資産税を安くする等の金銭的な支援も考えられるが、市が費用を負担しすぎても本末転倒なのでバランスが大切。
- 夏に遊覧船に乗ろうとしたが、満員で次の便まで待つように言われた。前売りのチケットもなく、確実に乗るには並ぶ必要があり、ネット予約や券売機など、乗船を予約できる仕組みがあるとよいと感じた。
- 誘客だけでなく、お金を使っていただく仕組み、受け皿を用意することも大切。お土産にもなる商品の開発にかかわったことがあるが、労力・リスク・コストなど、かなり大変だった。
- カウチサーフィン（インターネットを利用した個人民泊サービス）でドイツ人やフランス人を受け入れたことがあるが、Wi-Fi環境がないこととクレジットカード決済ができないことに不便を感じていた。外国人が訪れる観光施設ではWi-Fi環境があることが望ましい。
- 牡蠣小屋にレンタカーを借りて外国人観光客が来られるようになってきている。
- インスタ映えするためにバックに写る壁を探す人がいる。赤れんがは壁によいかも。
- 観光に携わっていると感じるのが、舞鶴へ来る人は、ここが目的地ではなく、天の橋立や伊根の“ついで”に寄ってもらっていると感じる。
- 観光イベントの棚卸しと整理が必要かもしれない。見るところも土産ものも、いいもの

があると思う、あとは上手なPRかと思う。

- 市主体のイベントは減ってきている。一過性ではなく、持続性のある人集めが必要。
- 民宿の立ち並ぶような観光地なら泊と食を同じところで済ませるスタイル（宿泊施設で全て済ませる）がよくあるが、舞鶴はそうでなく泊と食が分離しており、観光客にいかにして外に出てもらうか、遊んでもらうかを工夫する必要がある。
- AI や IoT など先端技術も活用して観光振興や産業振興が図られないか。
- 舞鶴は大部分が自然なので、例えばハイキングコースの整備、自然の中で楽しむロードレースや山歩きイベントの実施など、もっと山や森をアピールしてほしい。

## 《スポーツ振興・交流》

- レスリング人口を増やすような取り組みをしているのか。  
⇒舞鶴にはクラブチーム（民間）があり、幼児から高校生までの約 40 名が在籍している。学校にレスリングクラブを作ってもらえないかお願いしても、生徒数が減少していたり、費用や場所が必要になり難しい。周知に努めている。
- オリンピック選手も育てられた先生が日星高校で顧問をされている。
- レスリングはその先生が市全体を引っ張っていただいている。オリンピック選手でも「メシを食わせてやるで。」の一言で招待するのに何百万もかかるような人でも来てもらっている。後継の方もスポーツ振興課に勤務していただいている。レスリングや陸上は競技レベルの底上げが著しいが、これらの人が舞鶴にいていただいているのが、一番大きい。人を大切にしなければいけない。
- まずはレスリングについて市民に知ってもらうことが大切。
- 文化公園体育館や東体育館のトレーニングジムをよく利用するが、機器が古くなっているので更新して欲しい。  
⇒費用面のこともあり簡単にはできないが、東京オリンピックのホストタウンを契機に更新できればよい。
- せっかく人工芝グラウンドができたので、例えばサッカーのスター選手を呼んでイベントをすれば、良さをみんなに知ってもらえると思う。
- スポーツ振興と地域振興の観点で、市外からスポーツ留学を積極的に受け入れられる仕組みをつくってはどうか。
- いろいろな競技で好成績を挙げた選手が点在している。力を入れて取り組みたいと思う子に十分な指導が行える環境が整いやすいと思うし、是非そうなってほしい。スポーツ人の育成は農業と同じ。ふさわしい土壌作りを市がバックアップしてはどうか。
- 指導者と最新設備とデータで強い選手が出来る。
- レスリングなどは全国レベルの選手がどんどん育ってきている。
- 陸上もすぐに同じレベルになると思う。

## 《地域連携（北部連携・旧軍4市等）》

- 京都府北部地域連携構想の具体的な動きはどのようなものがあるのか。  
⇒今年度主なもので3つの事業を行った。
  - ①京都市内で合同就職面接会を実施し130名が来場されそのうち20名以上がその場で内定。
  - ②企業と生産者をマッチングする農商ビジネスフェアを与謝野町で実施。
  - ③移住定住プロジェクトで、単体では弱いPRを地域全体で実施。
- このご時勢、単独の市でフルセットの機能を維持し続けるのは難しい。北部7市町に限らず、他市町村との連携は不可欠。長所は生かしあい、短所は補う。
- 福知山公立大学と連携して地域活性化を検討されているところもあるように聞く。舞鶴も検討してもらえないか。  
⇒現在は福知山と与謝野町の検討で手一杯。2年ほどして少し余裕ができたなら北部地域全体を研究対象に入れてもらいたい。

## 《歴史文化を活かしたまちづくり》

- 吹田市では学校で自分の住んでいる町の歴史を学ぶ授業がありそのための教科書があったが舞鶴にはないのか。  
⇒舞鶴市にもふるさと学習の授業があり副読本「私たちの舞鶴」を使って学習を行っている。
- 多禰寺に収蔵されている文化財を見てすごいと感じたが、単体の公開ではPRが弱いところもある。他の寺社の文化財と併せて見て回るような商品ができないか。  
⇒文化財の所有者によっては公開を希望されていない方もいる。商品化にはストーリーが必要。ちなみに今年は明治150年。
- 日本遺産のマップにも食事場所等を少し入れておくと見た人に行ってもらいやすい。  
⇒今回は日本遺産のPRのためイメージを大切にしたいマップにしており、あえて載せていない。
- 来訪者の増加と地域消費の増加をねらう仕組みをセットで考えていくべき（即ち、宿泊客の増加策）。早朝だけ見れる。ここに泊まったら見れる等。
- 引揚の史実のように、保存（継承）と活用（発信）によって価値が出ることもある。
- 糸井文庫が好き。気軽に見れるとよい。
- 旧丸山小学校は市内に現存する唯一の木造校舎。天井や床が抜けていて危ないし、かといって修繕には費用がかかるかもしれないが、その雰囲気がよくて映画のロケ地として何度も使われている。ここは残して欲しいし、そんな校舎があることを広く市民にも知ってほしいし誇りに思っている。
- 映画会社もこの校舎の存在を認識しているので、使えるようにすれば、ロケ地として復活するかもしれない。また、雰囲気を活かした古い小物類販売等の商、昔ながらの給食の提供等の食、オートキャンプ場等の遊。色々な使い方を秘めていると思う。

- ボーイスカウトの活動でキャンプをするときには、施設として整っているサイトよりどちらかというともっと不便で、安全なところを探す。そういった意味で小学校跡は適当かもしれない。

## 《多文化共生》

- 安価で一時的な労働力ではなく、定住者として外国人労働者を受け入れることはできないか。  
⇒治安が悪くなるなどの思い込みがあり、受け入れることに消極的な人が多い。
- 舞鶴に住むベトナム人が増えており、もうすぐ中国人の数を超えそう。
- 病院や銀行にも外国人が来られることはあるが、言葉の壁があり対応に苦慮する。
- 住むのであれば自治会に入り、地域での活動にも参加してもらうことが必要であり、行政の力も必要になる。
- 日本人も若い世代はオーストラリアなどへ語学習得と文化交流を目的にワーキングホリデーをしているが、逆に舞鶴に来てもらい、舞鶴で働いて舞鶴を知ってもらうことで、大人になってから再度舞鶴へ来てもらうことにもつながる期待がある。
- 賃貸住宅を扱っており、ロシア人を紹介したことがあるが、文化の違いやゴミの処分の問題などで大家とトラブルになった。
- 外国人に対し、日本のこと（時間を守るとか、ごみは分別が必要とか、日本では当たり前前のルール）について教育できる仕組みができれば受け入れは進むと思う。
- 舞鶴市では多文化共生事業で、舞鶴に住む外国人に舞鶴の文化や地域のことを知ってもらい、地域住民とつなげるような取組みも始めている。
- 現在も舞鶴市に住む外国人向けのガイド本はある。今後改定も検討している。
- 人口が減る中、まちの活力を維持していくためには、日本人、外国人問わず「Welcome」の受け入れ姿勢が必要であり、ごみ出しにしても分かる様に説明していくなど、一緒に暮らしていく仲間として接していく様自分達も意識を変えていくべきでは。
- 優秀な外国人にどんどん舞鶴に来ていただいて、日本人がその精神やスキルを学ぶべき時代にある。
- 頑なに守りに入るべきではなく、街を外に向かって拓いて、いいものをどんどん吸収するべき。